

第8回（10-12月期）

川口商工会議所

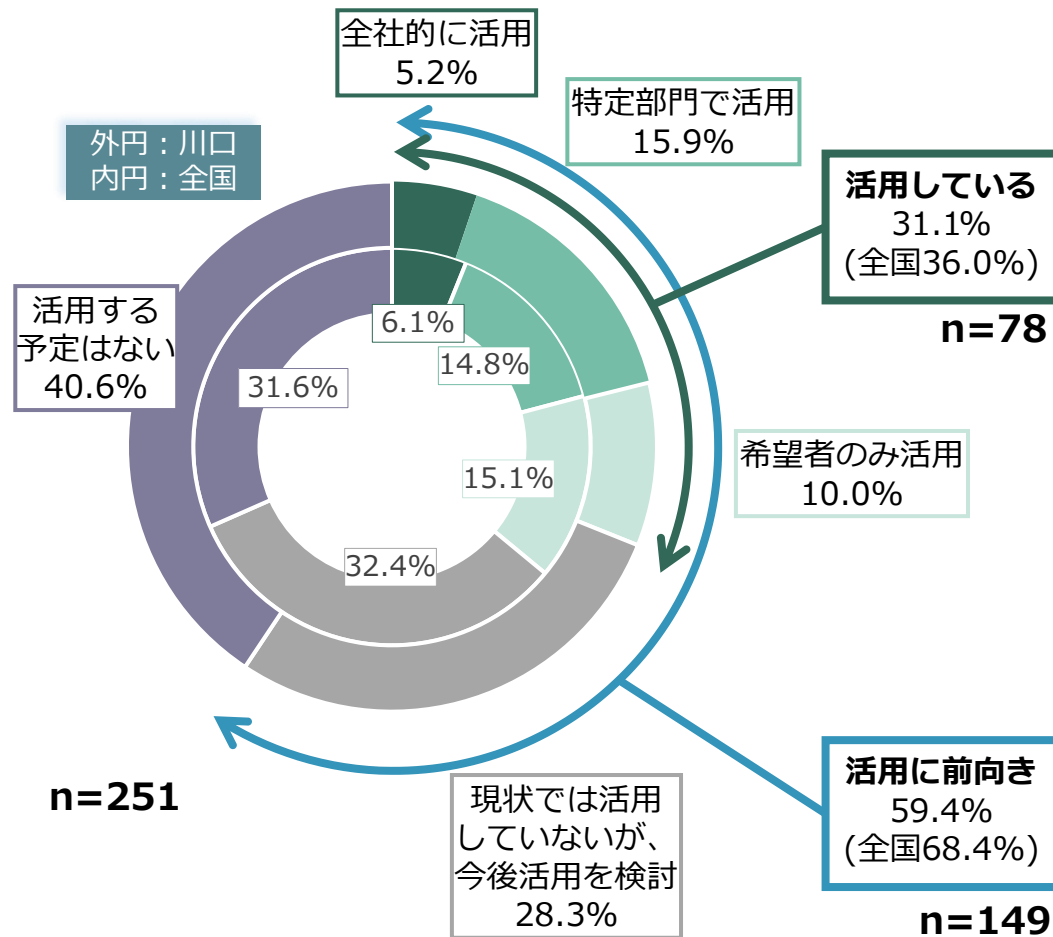
クロースアップ^o市内景況調査

2026年2月 川口商工会議所

【トピックス】生成AIの活用状況

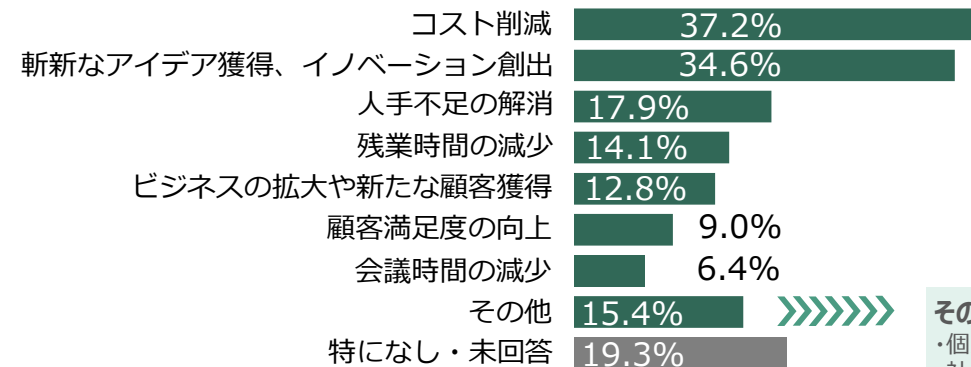
※全国＝商工会議所LOBO（早期景気観測）2025年11月調査結果を引用

①生成AIの活用状況（全国との比較）



②生成AIの活用で実感した効果

※複数回答可

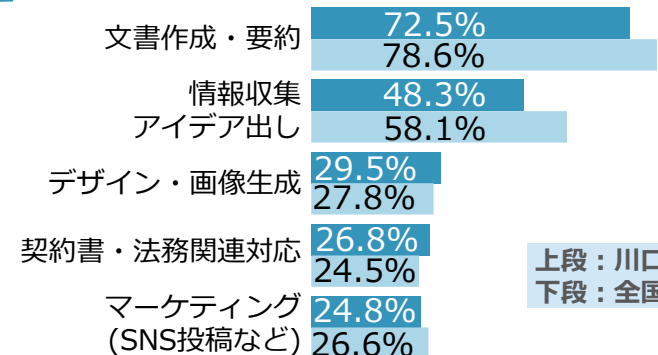


その他の内容

- ・個人レベルでの業務効率化の実感
- ・社長挨拶文・プレゼン資料・議事録等の文書作成時間の大幅短縮
- ・外国語翻訳業務の負担軽減

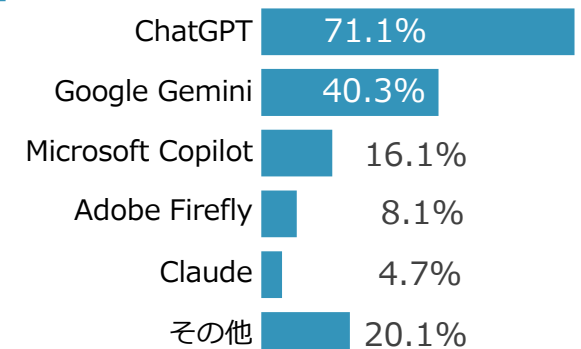
③生成AIを活用（活用を検討）している業務

※複数回答可



④活用（活用を検討）しているAIツール

※複数回答可



考察

生成AIの活用・検討に前向きな企業は約6割 活用業務は文書作成・要約、実感した効果はコスト削減が最多

- ①生成AIの活用状況は、「全社的に活用」「特定部門で活用」「希望者のみ活用」を合算した「活用している」は31.1%となった。「現状では活用していないが、今後活用を検討」を含めると59.4%で、6割近くが活用に関心がある。
- ②「活用している」企業が実感している効果は、「コスト削減」「人手不足の解消」「残業時間の減少」といった効率化効果に加え、「斬新なアイデア獲得、イノベーション創出」「ビジネスの拡大や新たな顧客獲得」も上位を占めた。
- ③活用（検討含む）業務では、「文書作成・要約」「情報収集・アイデア出し」といった作業の入口での活用が目立つ。
- ④ツールは、ChatGPTやGoogle Gemini等、文書作成に強く、スマホやPCで無料開始できるものが上位を占めた。

【景況感】 ◆全業種の業況（前期(7-9月)-今期(10-12月)-先行き(1-3月)）

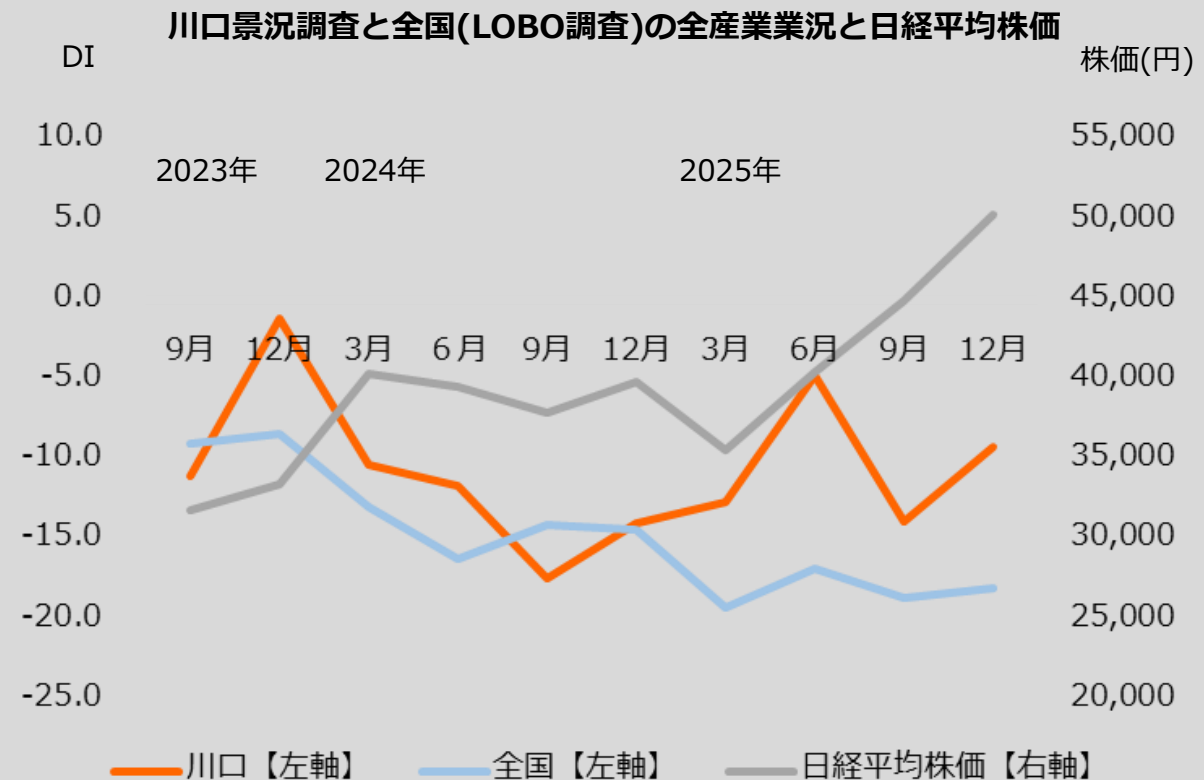
業況DIは、年末需要の下支えにより、改善方向へ
先行きは、長引く経営課題が多く、力強さを欠く

●全産業合計の業況は▲9.2（前期比+4.6ポイント）

- 建設業のみプラス、その他はマイナスとなった。小売業とサービス業の悪化傾向が弱まり、建設業と共に全産業の底上げに寄与した。
- 建設業は、工事遅延の解消により完成工事が集中したことから改善しプラス圏に転じた。小売業は、消費動向の二極化が継続する中、価格改定が進んだことで利幅が下げ止まり、悪化傾向が弱まった。サービス業は、年末需要回復と稼働率向上を背景に売上高が上向き悪化傾向は弱まった。一方で卸売業は、販売単価の見直しは進むものの数量面の伸びを欠き、悪化傾向が強まった。製造業は、コスト上昇の価格転嫁が進まず、仕事量が収益につながらない悩ましい状況が業況判断に悪影響を与えている。

●先行き見通しは▲9.2（今期比±0ポイント）

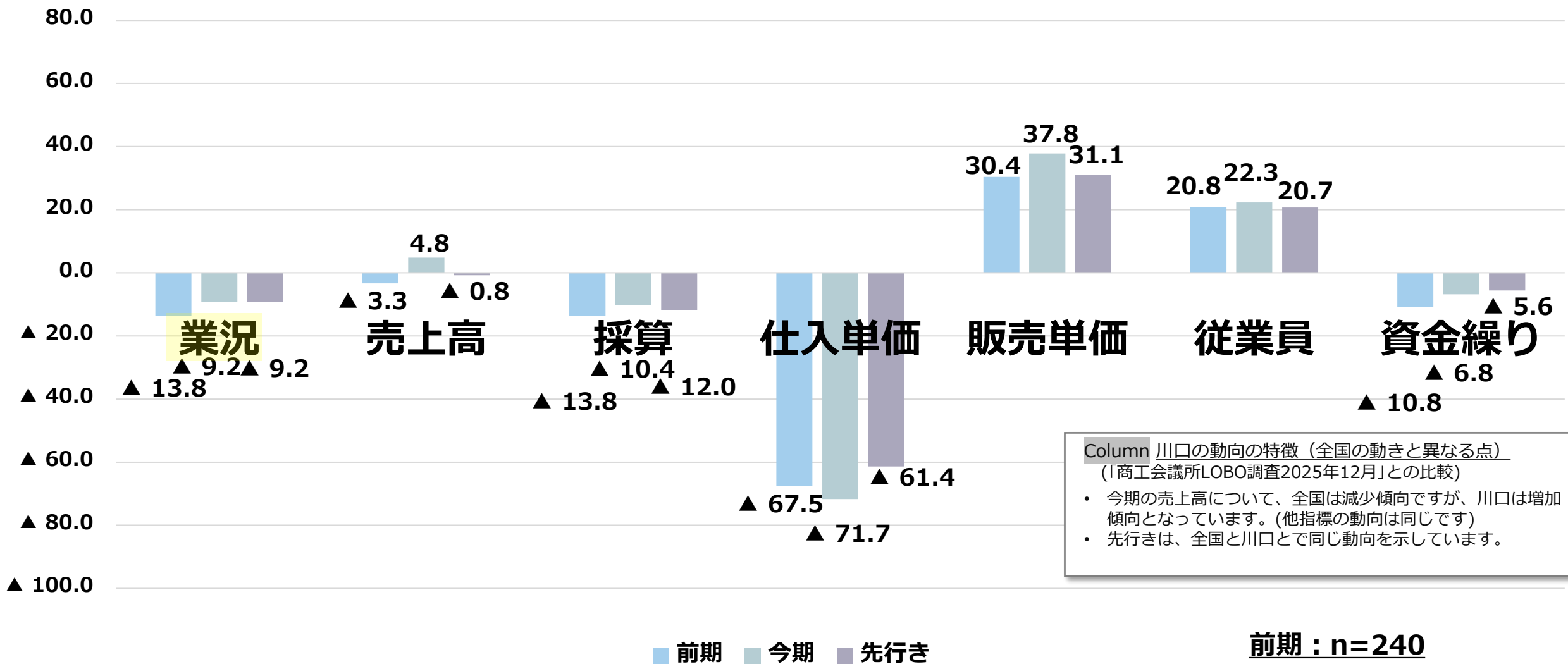
- 全業種がマイナスとなる見通し。建設業がマイナスへ転じる一方、その他は悪化傾向が弱まるか、横ばいとなる見通しである。
- 円安の伸展やメーカー価格改定に伴う仕入価格の上昇や、最低賃金の引上げおよび人材確保に向けた人件費上昇など、コスト増加分の価格転嫁や人手不足といった経営課題は山積している。国内政策への期待はあるものの、中国との関係悪化が続くなど先行き不透明感を背景に慎重な見方が続き、力強さを欠く見通しとなった。



業況DI（※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合）

	2023年		2024年				2025年				先行き見通し
	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月
全産業	▲ 11.0	▲ 1.1	▲ 10.3	▲ 11.6	▲ 17.4	▲ 13.9	▲ 12.6	▲ 4.7	▲ 13.8	▲ 9.2	▲ 9.2
製 造	▲ 4.0	▲ 5.7	▲ 2.5	▲ 14.1	▲ 15.3	▲ 11.8	▲ 11.4	▲ 7.9	▲ 7.0	▲ 8.1	▲ 7.0
建 設	▲ 7.3	5.4	▲ 6.5	0.0	▲ 11.4	6.7	▲ 13.9	12.7	▲ 12.1	5.4	▲ 5.4
卸売・小売・飲食	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
卸売・小売	▲ 15.2	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
卸 売	—	—	▲ 20.0	▲ 17.9	▲ 12.9	▲ 23.1	▲ 13.3	▲ 6.7	▲ 30.0	▲ 34.8	▲ 30.4
小 売	—	—	▲ 22.7	▲ 26.8	▲ 40.0	▲ 31.7	▲ 27.3	▲ 29.3	▲ 22.5	▲ 12.9	▲ 12.9
飲 食	▲ 20.0	5.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サービス	▲ 17.4	▲ 5.0	0.0	2.7	▲ 7.3	▲ 20.0	▲ 7.1	▲ 4.8	▲ 16.7	▲ 8.2	▲ 6.1

【景況感】 ◆全産業の動向（前期(7-9月)-今期(10-12月)-先行き(1-3月)）



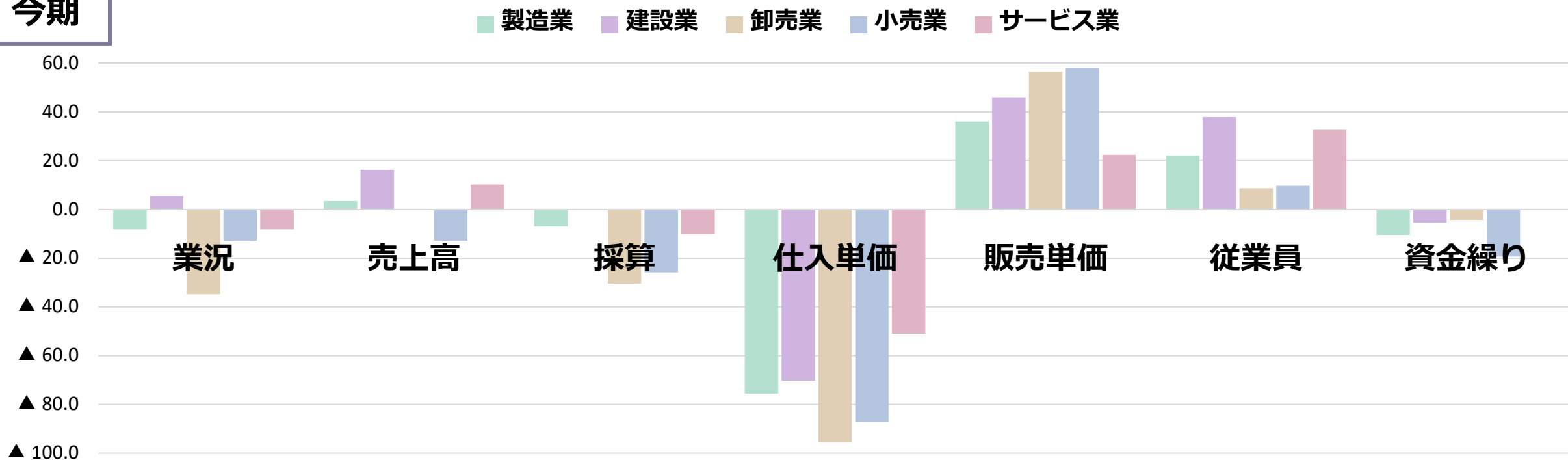
前期：n=240
今期・先行き：n=251

考察

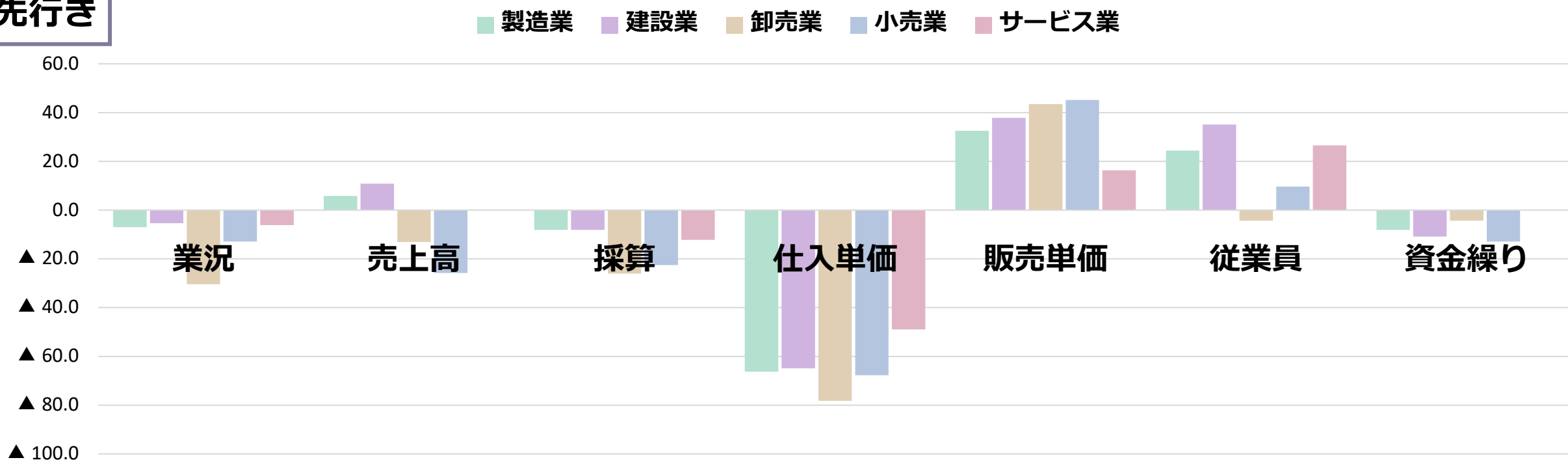
- 業況は、今期は売上高増の影響等から悪化傾向がやや弱まり、先行きも同水準の悪化傾向が続く見通しである。
- 売上高は、今期は増加傾向に転じるものの、先行きは減少傾向に転じる見通しである。
- 採算は、今期は悪化傾向がやや弱まるものの、先行きは悪化傾向がやや強まる見通しである。
- 仕入単価は、今期は上昇傾向がやや強まるものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- 販売単価は、今期は売価改定により上昇傾向が強まるものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- 従業員は、今期は不足傾向がやや強まるものの、先行きは不足傾向がやや弱まる見通しである。
- 資金繰りは、今期は悪化傾向がやや弱まり、先行きも悪化傾向が弱まる見通しである。

【景況感】 ◆業種別の動向

今期



先行き



【景況感】 ◆業種別の業況（前期(7-9月)-今期(10-12月)-先行き(1-3月)）



製造業

（今期）業況は悪化傾向がやや強まった。人件費等のコスト増が続く一方で価格転嫁が十分進まず仕事は忙しいものの収益を確保しにくい悩ましい状況が、業況判断に悪影響を与えている。
（先行き）業況は悪化傾向がやや弱まる見通し。コスト上昇への警戒感はやや和らぐが、価格面での調整余地は限定的との見方が強く、取引先の発注姿勢を見極める動きが業況判断に影響している。



建設業

（今期）業況は前期の悪化傾向から好転した。工事遅延の解消により完成工事が集中したことから売上高が改善。一方、回収時期のずれもあり採算は悪化傾向から脱したにとどまる。
（先行き）業況は再び悪化傾向に転じる見通し。完成工事の一服で売上高の伸びは鈍化する中、利益確保が難しく採算は悪化。業務量の落ち着きにより人手不足感はやや弱まる見通しである。



卸売業

（今期）業況は悪化傾向がやや強まった。メーカー値上げの影響で仕入単価が全体的に押し上げられる中、販売単価の見直しは進むも数量面の伸びを欠き、売上高は横ばいにとどまっている。
（先行き）業況は悪化傾向がやや弱まる見通し。販売価格改定の動きが続くが、需要の弱含みから売上高は減少に転じる。また、取扱量縮小を背景に従業員は過剰傾向に転じる見通しである。



小売業

（今期）業況は悪化傾向が弱まった。仕入単価上昇が続く中で売価改定が一巡し、利幅は下げ止まった。一方消費者の購買意欲は回復せず売上高減少が続くため、採算は依然厳しい水準にある。
（先行き）業況は同水準の悪化傾向が続く見通し。価格転嫁は一巡し、仕入単価の上昇は落ち着くものの、需要の弱さから売上高は減少傾向が続き、採算持ち直しは緩やかとなる見通しである。



サービス業

（今期）業況は悪化傾向が弱まった。年末需要回復と稼働率上昇を背景に売上高は上向き、採算と資金繰りは悪化傾向から脱した。一方で、人員余力の乏しさから人手不足感が強まっている。
（先行き）業況は悪化傾向が弱まる見通し。仕入単価・販売単価の上昇傾向はやや和らぐ一方、採算は今期より厳しさを増す。売上高と資金繰りは落ち着いた動きとなる見通しである。

【景況感】 ◆経営状況に関する具体的な声（主要なものを抜粋）



製造業

- 人材確保のために無理な賃上げをすると厳しくなるため、今年は低水準な賃上げにとどめる予定（産業用機械製造業）
- 中国との関係悪化等による輸出への悪影響が心配（医療機器製造販売業）
- 小口化の進行で価格転嫁が難航する一方、事務負担増で採算が悪化している（金属焼付塗装業）
- 取適法の改善効果は限定的で、資金繰りを見極めつつサイト短縮を進めている（紙器製造業）



建設業

- 受注は堅調だが人手不足が深刻。働き方改革で教育が行き届かず、外国人材依存と技能継承に不安を感じている（とび土工業）
- 建設費高騰により入札不調や計画見直し、延期、中止が相次ぎ、案件が減少している（基礎工事業）
- 公共工事では週休2日制等の対応を求められ、工期延長やコスト増が発生。工期中の相次ぐ仕入高騰もあり、長期案件は不安が絶えない（電気設備工事業）



卸売業

- 人件費上昇を価格転嫁できず人員確保も必要なため、業績が悪化している（弁当・給食卸売業）
- 非鉄金属相場の急騰で仕入価格が上昇し、価格転嫁も進まず利益率が急低下している（非鉄金属卸売業）
- 中国との関係悪化の長期化が、業績悪化要因となることを懸念している（酒類輸出業）
- 円安による仕入コスト上昇が、経営を圧迫している（化学製品卸売業）



小売業

- 日本語での意思疎通ができない外国人客が増え、意思疎通が難しいため、接客時間を要して業務効率が低下している（文具小売業）
 - 年末にかけて急速に円安が進行し、どこまで下がるのか不安を覚える（雑貨小売業）
 - 特段の変化は見込まれず、例年並みの状況が続く見通し（パン小売業）
- ※全回答を掲載

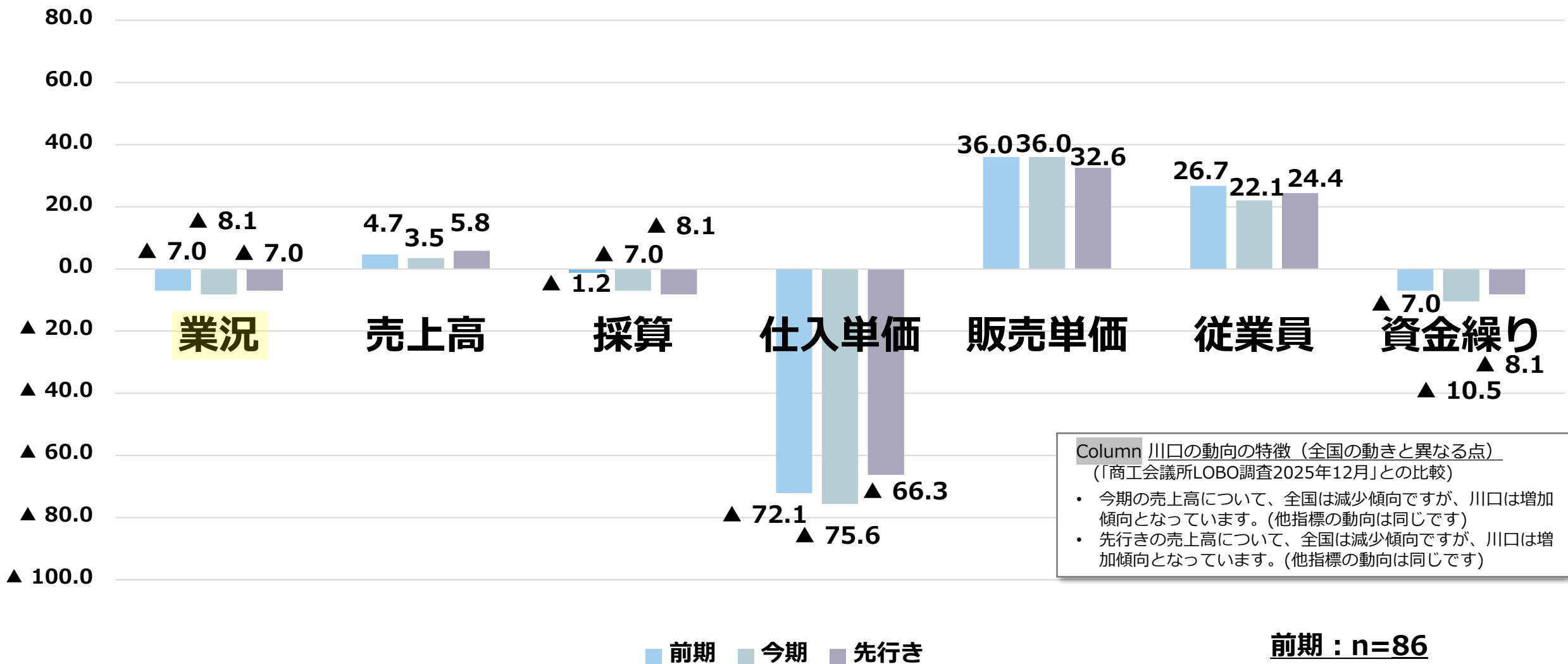


サービス業

- イベント出店は川口市内で事業を行い、納税している会員を優先すべき（飲食サービス業）

※全回答を掲載

【景況感】 ◆製造業の動向（前期(7-9月)-今期(10-12月)-先行き(1-3月)）

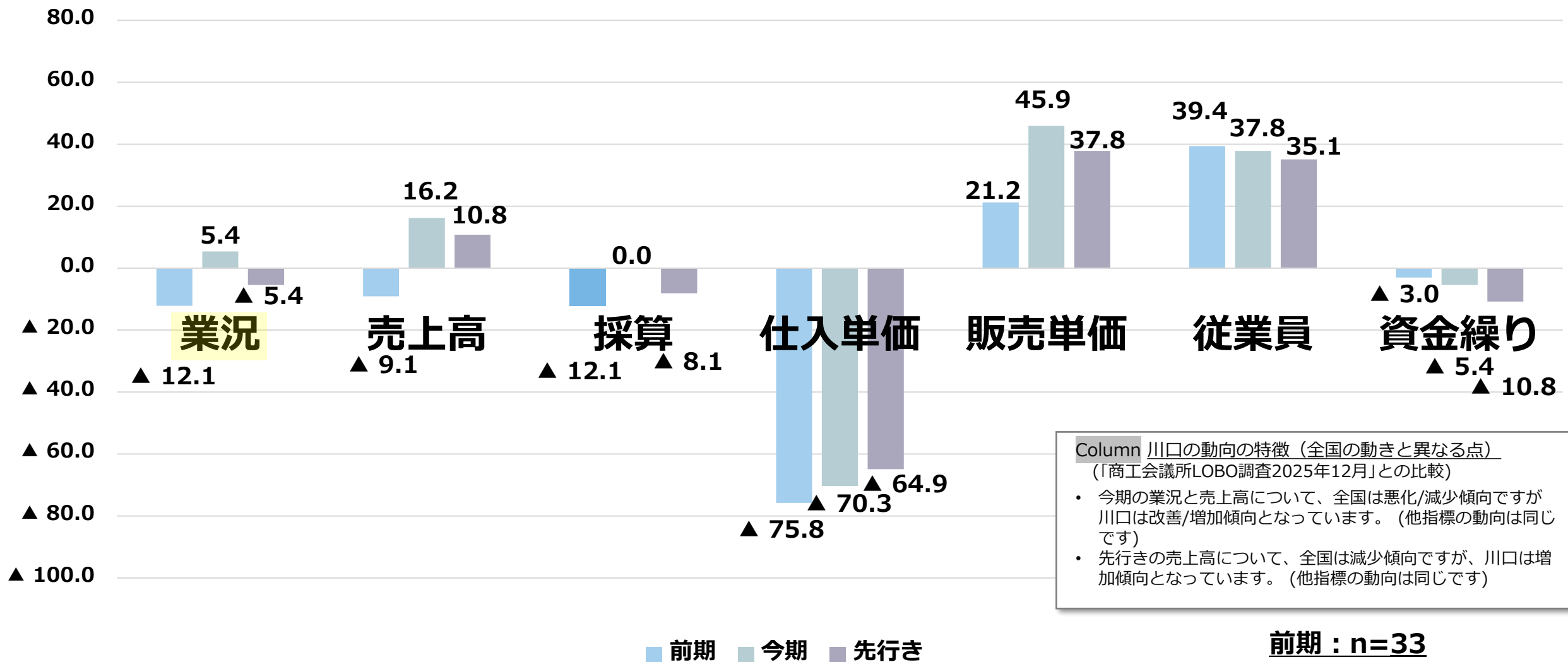


前期：n=86
今期・先行き：n=86

考察

- ・ 業況は、今期は採算悪化に伴い悪化傾向がやや強まるものの、先行きは悪化傾向がやや弱まる見通しである。
- ・ 売上高は、今期は増加傾向がやや弱まるものの、先行きは増加傾向がやや強まる見通しである。
- ・ 採算は、今期は仕入単価の上昇により悪化傾向が強まり、先行きは悪化傾向がやや強まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期は資材高騰により上昇傾向がやや強まるものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は前期と同水準の上昇傾向が続くものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は不足傾向がやや弱まるものの、先行きは不足傾向がやや強まる見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は悪化傾向がやや強まるものの、先行きは悪化傾向がやや弱まる見通しである。

【景況感】 ◆建設業の動向（前期(7-9月)-今期(10-12月)-先行き(1-3月)）

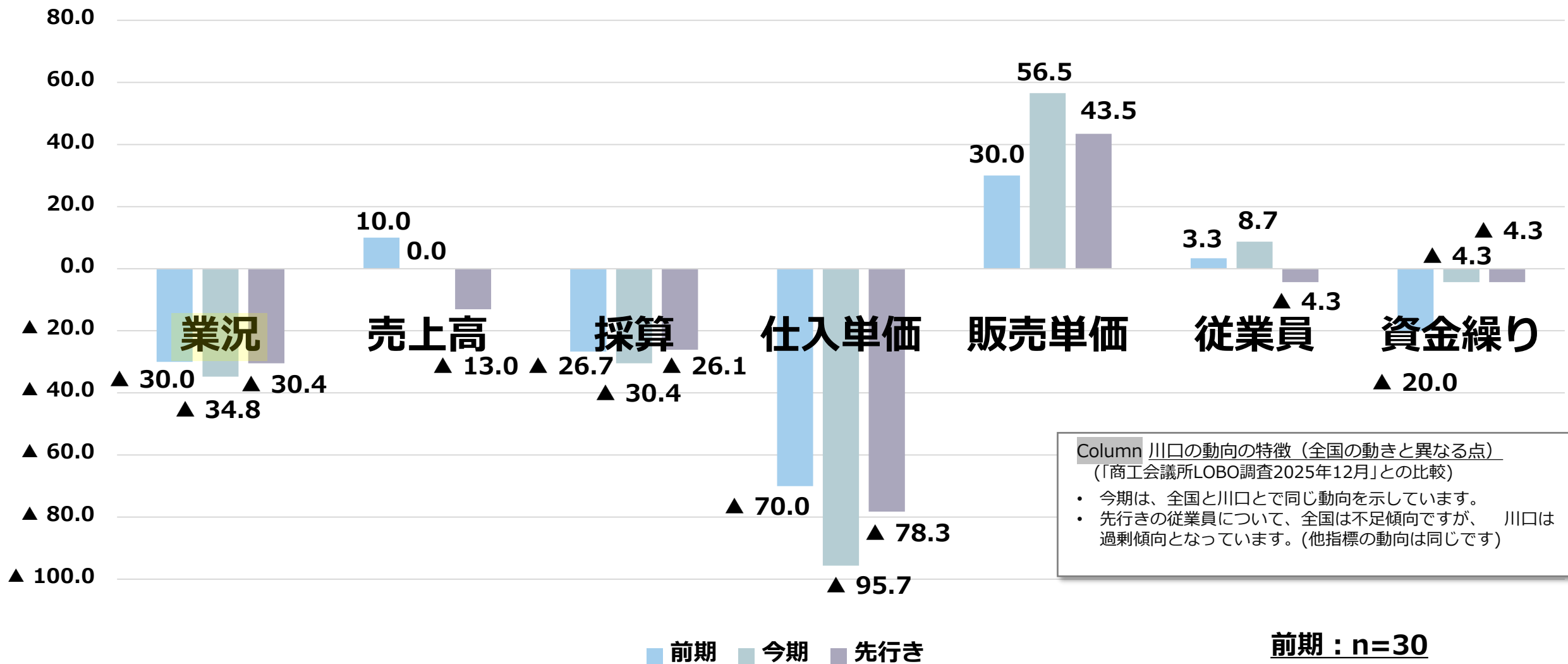


前期：n=33
今期・先行き：n=37

考察

- ・ 業況は、今期は売上高や採算の改善に伴い好転するものの、先行きは再び悪化傾向に転じる見通しである。
- ・ 売上高は、今期は工期遅延の巻返りで増加傾向に転じるものの、先行きは増加傾向が弱まる見通しである。
- ・ 採算は、今期は改善して横ばいとなるものの、先行きは再び悪化傾向に転じる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期は上昇傾向が弱まり、先行きも上昇傾向がやや弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は工事価格高で上昇傾向が大きく強まるものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は不足傾向がやや弱まり、先行きも不足傾向がやや弱まる見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は悪化傾向がやや強まり、先行きは引き続き悪化傾向が強まる見通しである。

【景況感】 ◆卸売業の動向（前期(7-9月)-今期(10-12月)-先行き(1-3月)）

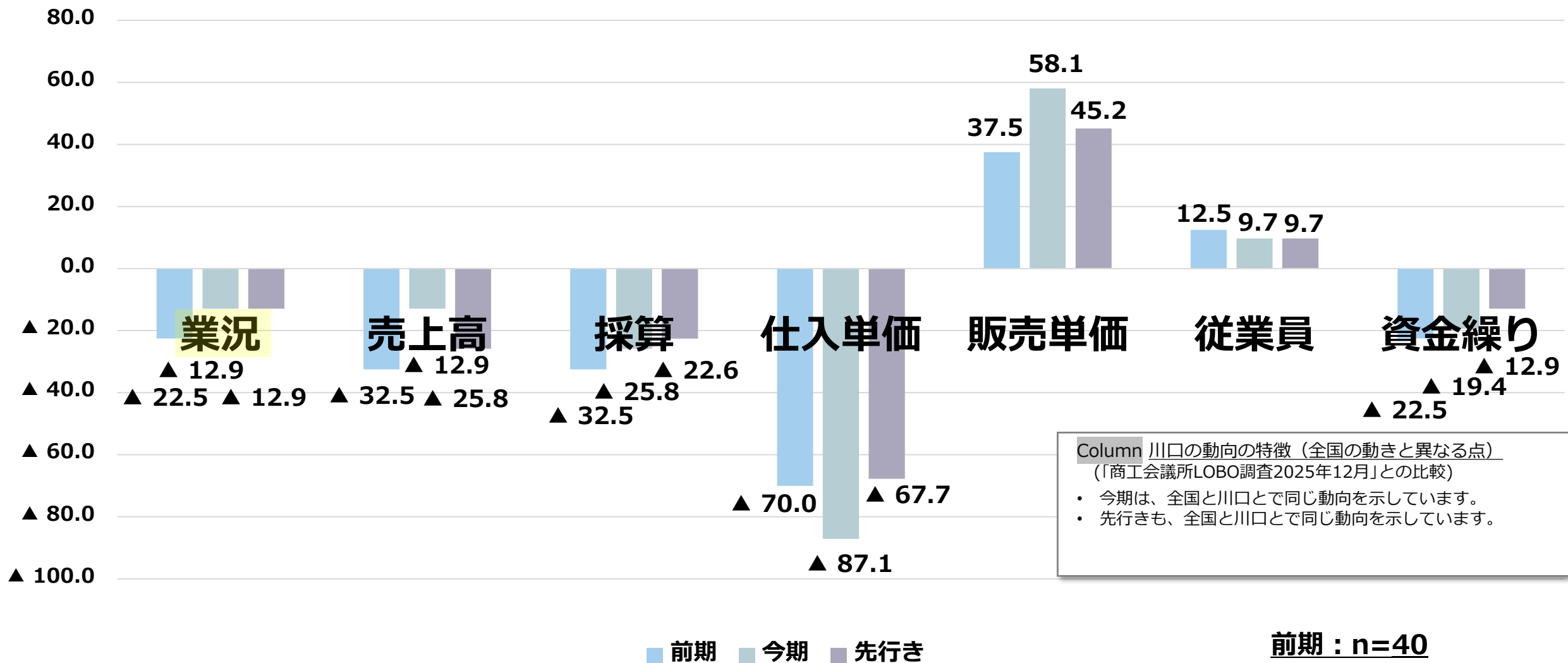


前期：n=30
今期・先行き：n=23

考察

- ・ 業況は、今期は採算悪化の影響で悪化傾向がやや強まるものの、先行きは悪化傾向がやや弱まる見通しである。
- ・ 売上高は、今期は需要鈍化により横ばいとなり、先行きは減少傾向に転じる見通しである。
- ・ 採算は、今期は価格転嫁の遅れで悪化傾向がやや強まるものの、先行きは悪化傾向がやや弱まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期はメーカー値上げで上昇傾向が大きく強まるものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は売価改定により上昇傾向が大きく強まるものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は不足傾向が強まるものの、先行きは過剰傾向に転じる見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は在庫調整により悪化傾向が弱まり、先行きも同水準の悪化傾向が続く見通しである。

【景況感】 ◆小売業の動向（前期(7-9月)-今期(10-12月)-先行き(1-3月)）

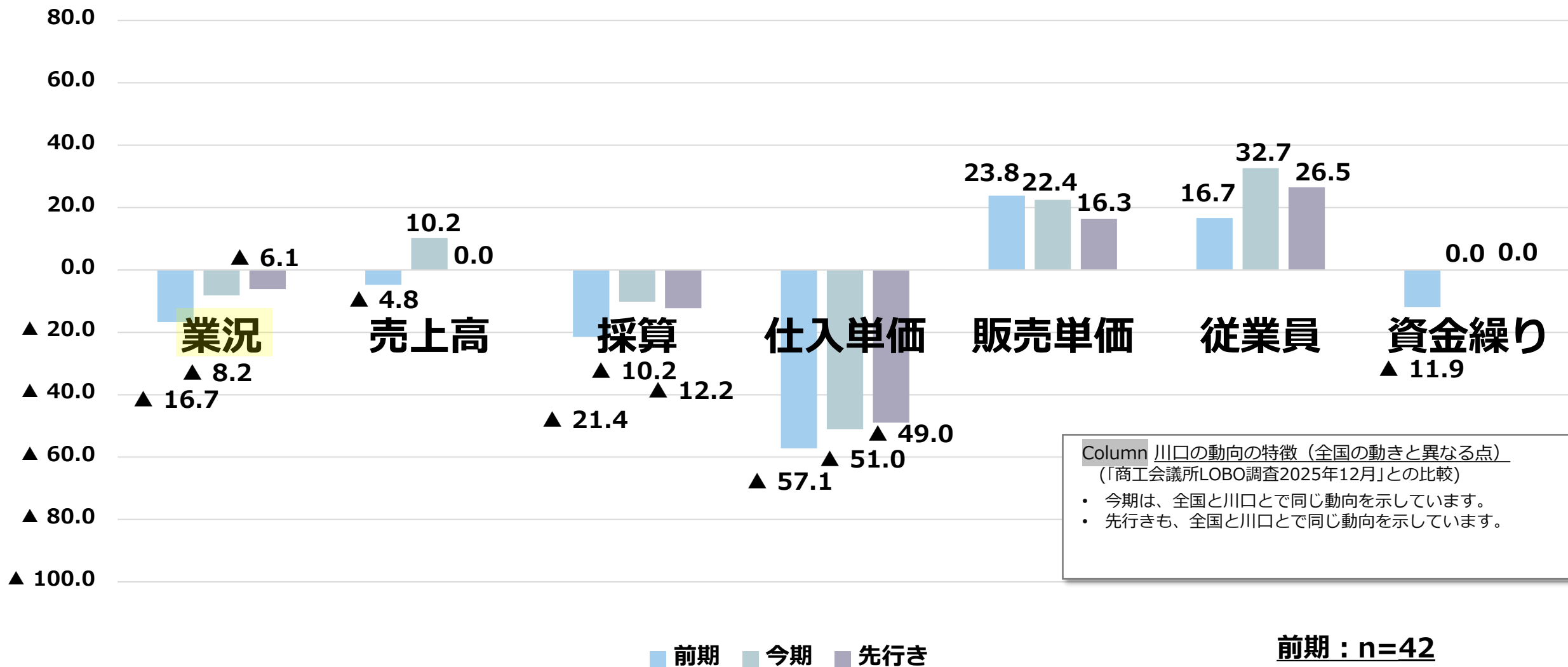


前期：n=40
今期・先行き：n=31

考察

- ・ 業況は、今期は売上高と採算の一服により悪化傾向が弱まり、先行きは同水準の悪化傾向が続く見通しである。
- ・ 売上高は、今期は販売単価上昇により減少傾向が弱まるものの、先行きは減少傾向が強まる見通しである。
- ・ 採算は、今期は売価改定による収益増で悪化傾向が弱まり、先行きも悪化傾向がやや弱まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期はメーカー値上げにより上昇傾向が強まるものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は売価改定により上昇傾向が大きく強まるものの、先行きは上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は客足減少で不足傾向がやや弱まり、先行きも同水準の不足傾向が続く見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は在庫調整により悪化傾向がやや弱まり、先行きも悪化傾向が弱まる見通しである。

【景況感】 ◆サービス業の動向（前期(7-9月)-今期(10-12月)-先行き(1-3月)）



前期：n=42
今期・先行き：n=49

考察

- ・ 業況は、今期は売上高や採算の改善により悪化傾向が弱まり、先行きは悪化傾向がやや弱まる見通しである。
- ・ 売上高は、今期は年末や行事の需要増により増加傾向へ転じたものの、先行きは横ばいとなる見通しである。
- ・ 採算は、今期は稼働率上昇に伴い悪化傾向が弱まるものの、先行きは悪化傾向がやや強まる見通しである。
- ・ 仕入単価は、今期は上昇傾向が弱まり、先行きも上昇傾向がやや弱まる見通しである。
- ・ 販売単価は、今期は上昇傾向がやや弱まり、先行きも上昇傾向が弱まる見通しである。
- ・ 従業員は、今期は稼働率上昇により不足傾向が強まるものの、先行きは不足傾向が弱まる見通しである。
- ・ 資金繰りは、今期は稼働率上昇に伴い横ばいとなり、先行きも横ばいとなる見通しである。

【参考資料】 ◆調査概要・回答者の状況

調査概要

調査期間：2026（令和8）年 1月 7日（水）～ 1月 15日（木）

調査対象：会員事業所 1,912件（FAX 932件、メール 980件） ⇒ 回答数：251件（回答率 13.1%）

回答者の状況

◆属性

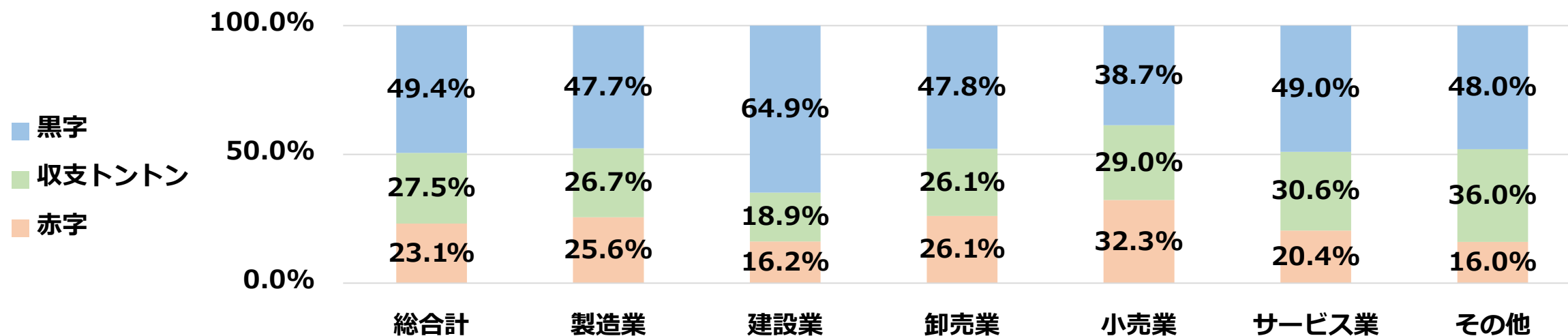
業種	実数	割合
製造業	86	34.3%
建設業	37	14.7%
卸売業	23	9.2%
小売業	31	12.3%
サービス業	49	19.5%
その他	25	10.0%
総計	251	100%

業歴	実数	割合
5年未満	11	4.4%
5～10年	18	7.2%
11～20年	40	15.9%
21～30年	35	13.9%
31年以上	147	58.6%
総計	251	100%

資本金	実数	割合
個人事業主	32	12.7%
500万円以下	76	30.3%
500万円超～1千万円以下	68	27.1%
1千万円超～3千万円以下	49	19.5%
3千万円超～5千万円以下	14	5.6%
5千万円超～1億円以下	7	2.8%
1億円超	0	0.0%
その他・未回答	5	2.0%
総計	251	100%

従業員数	実数	割合
0～5人	140	55.8%
6～20人	68	27.1%
21～50人	24	9.5%
51～100人	9	3.6%
101～300人	6	2.4%
301人以上	3	1.2%
未回答	1	0.4%
総計	251	100%

◆収益状況（直近の決算）



【参考資料】 ◆第8回（10-12月期）川口商工会議所 クローズアップ市内景況調査 アンケート用紙

川口商工会議所 総合政策課宛 (FAX 048-228-2221)

第8回 (10-12月期) 川口商工会議所クローズアップ市内景況調査へのご協力をお願い
2026年1月7日

会員のみなさまへ (必ずご回答くださいますようお願い申し上げます。)

日ごろより、本商工会議所の事業運営に、ご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
当所では、市内企業の景況を調査するため、四半期に一度「クローズアップ市内景況調査」を実施しております。このたび、第8回(10-12月期)調査を実施いたしますので、お忙しいところ、誠に恐縮ですが、該当部分にチェックのうえ、1月15日(木)までに、FAX またはアンケートフォーム(右QRコード)にてご返信いただきますようお願いいたします。

皆様のご協力のもと、本調査結果につきましては、引続き本市中小企業支援や行政への意見要望等の参考とさせていただきます。また、過去の調査結果につきましては、本商工会議所ホームページに掲載しておりますのでご参照ください。

アンケート調査票

問1 貴社の状況についてお伺いします。(1)～(5)についてそれぞれ該当する番号をご回答ください。

(1)業種 ※複数業種の場合は売上比率の最も高い業種を1つお選びください。
差し支えなければ、()内に詳しい業種もご記入ください。例)建設業(造園工事業)

1 製造業()	2 建設業()	3 卸売業()
4 小売業()	5 サービス業()	6 その他()

(2)業歴

1 5年未満	2 5～10年	3 11年～20年	4 21年～30年
5 31年以上			

(3)資本金

1 個人事業主	2 500万円以下	3 500万円超～1千万円以下
4 1千万円超～3千万円以下	5 3千万円超～5千万円以下	6 5千万円超～1億円以下
7 1億円超～	8 その他	

(4)従業員(正社員)数(パート・アルバイトを除く)をご記入ください。
人。(代表者を除く)

(5)収益状況(直近の決算)

1 黒字	2 収支トントン	3 赤字
------	----------	------

問2 貴社の景況感について、回答できる範囲で、該当部分に□チェックをご記入ください。

(1)今期(前年同月比)

1. 売上高 □増加 □不変 □減少	2. 採算 □好転 □不変 □悪化
3. 仕入単価 □下落 □不変 □上昇	4. 販売単価 □上昇 □不変 □下落
5. 従業員 □不足 □不変 □過剰	6. 業況 □好転 □不変 □悪化
7. 資金繰り □好転 □不変 □悪化	

(2)今期3か月の先行き見通し(今月比)

□増加 □不変 □減少	□好転 □不変 □悪化
□下落 □不変 □上昇	□上昇 □不変 □下落
□不足 □不変 □過剰	□好転 □不変 □悪化
□好転 □不変 □悪化	

問3 貴社における生成AIの活用状況について、以下からご回答ください。
※生成AIとは、ユーザーから入力された情報に応じて、テキスト・画像・音楽・映像などのコンテンツを生成することができる人工知能(AI)。代表的なものにOpenAI社のChatGPTやGoogleのGeminiなどがあります。

問3-1 貴社における生成AIの業務への活用状況について、最も近いものを選択肢から1つお選びください。
[選択肢]

□ 1: 全社的に活用している □ 2: 特定部門で活用している □ 3: 希望者のみ活用している
□ 4: 現状では活用していないが、今後活用を検討している ※1～3の回答者 → 問3-2&問3-3&問3-4へ
□ 5: 活用する予定はない 4の回答者 → 問3-2&問3-3へ
5の回答者 → コメント欄へ

※問3-1で選択肢1～4と回答した方にお伺いします。
問3-2 貴社において生成AIを活用(活用を検討)している業務を選択肢からお選びください(複数回答可)。
[選択肢]

□ 1: 文書作成・要約(企画書、議事録、メール文の作成、資料の要約など)
□ 2: 情報収集・アイデア出し(市場調査、新しい企画のアイデア創出など)
□ 3: 契約書・法務関連対応(契約書のドラフト作成、条項のレビュー、法的文書の要約など)
□ 4: マーケティング(SNS投稿文の作成、広告キャッチコピーの考案など)
□ 5: 顧客対応(FAQの自動応答、チャットボットなど)
□ 6: デザイン・画像生成(プレゼン資料の画像作成、ロゴデザインなど)
□ 7: プログラミング・開発(コード生成、デバッグなど)
□ 8: その他()

※問3-1で選択肢1～4と回答した方にお伺いします。
問3-3 貴社で業務に活用(活用を検討)している生成AIツールを選択肢からお選びください(複数回答可)。
[選択肢]

(文章生成) □ 1: ChatGPT (OpenAI) □ 2: Claude (Anthropic) □ 3: Gemini (Google)
□ 4: Microsoft Copilot
(画像生成) □ 5: Adobe Firefly □ 6: Midjourney □ 7: StableDiffusion
(動画生成) □ 8: Runway □ 9: HeyGen □ 10: FlexClip
(音声・音楽生成) □ 11: VALL-E □ 12: Suno AI
□ 13: その他()

※問3-1で選択肢1～3と回答した方にお伺いします。
問3-4 生成AIを活用するにあたって、実感した効果について、当てはまるものを選択肢からお選びください。
(複数回答可)。
[選択肢]

□ 1: 社員の残業時間が減った
□ 2: 会議時間が減った
□ 3: 人手不足の解消につながった
□ 4: コストが削減できた
□ 5: ビジネスの拡大や新たな顧客獲得につながった。
□ 6: 顧客満足度が向上した
□ 7: 斬新なアイデアの獲得や新たなイノベーションが生じた
□ 8: その他()
□ 9: 特になし

(コメント欄 ※以下の事項等についてご意見や事例をお寄せください ※調査結果に掲載することがあります。)
①経営への寄与や影響(米国税、円安、原材料・エネルギー価格・労務費等のコスト増や価格転嫁、人手不足、日銀の金融政策、国内外の観光需要、祭事等のイベントや地域のトピック、天災、設備投資、公共工事・民間工事)
②調査に関連する具体的な意見や事例
③開催してほしい研修・セミナー

以下の内容をご記入ください。(※公開内容となります。)*アンケートの送信方法を変更する方に限り回答をお願いいたします

事業所名	
今後、希望するアンケートの受信方法	FAX ・ メール (いずれかに○をお願いいたします。)
メールアドレス(メールでご希望の場合)	

ご協力ありがとうございました。*回答いただいた内容につきましては、川口商工会議所の運営に活用させていただきます。
問い合わせ: 川口商工会議所 総合政策課 (TEL: 048-228-2220)

調査方法: FAX・メール・郵送による送付、FAX・Web (Googleフォーム) による回答
分析方法: 売上高、採算、従業員、業況などについて、「増加」(好転など)と答えた企業から「減少」(悪化など)と答えた企業割合を差し引いたDI値を中心に分析
(DI: Diffusion Index)

※飲食店の業種について

令和6年4月より中小企業基本法上の類型では、中分類76(飲食店)は小売業区分として整理されています
しかし当調査では、日本標準産業分類に基づき、飲食店をサービス業に分類して集計しています